

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070201916		
法人名	医療法人社団醫光会		
事業所名	グループホーム のぞみ		
所在地	群馬県高崎市下佐野町 752-1		
自己評価作成日	平成23年9月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成23年12月 9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

楽しく筋力低下防止の為に体操ができるように、音楽に合わせた体操や無理なくできる口腔体操など工夫しています。毎日が楽しく過ごせる様、笑顔・笑い声が弾むホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“家庭にいるように過ごしてもらいたい”という職員の思いが、季節感のある落ち着いた室内の設えや手を掛けて作られた料理に表れている。旬の食材を使用した家庭的な料理は盛り付けも美しく、食欲をそそるであろうと思われた。利用者が楽しみながら筋力の低下を防げるよう、音楽に合わせた体操に取り組んでいる。一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫や配慮をしながら、利用者本位の支援に取り組んでいる。職員の温かい見守りの中、利用者が笑ったり楽しく語り合い、ゆったりと過ごしているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの役割について職員会議で話し合い、開設時に作成した理念を見直し、地域との関係性を盛り込んだ新たな理念も作り上げている。	地域密着型サービスのあり方を端的に示した独自の理念を掲げている。管理者と職員は会議等で運営理念に触れ、その理念を共有して日常業務の中で実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議開催により、区長や民生委員を通して地域の方々とも交流が出来る様になってきている。秋祭り等のホームの行事には、地域の方の参加を呼びかけ交流の機会を持っている。	区長・民生委員の協力を得て、地域住民との交流が出来るようになってきている。散歩時に近隣の人と話をしたり、幼稚園児が来訪している。秋祭り際には、地域住民にチラシを配布し、多数の地域住民と交流を図っている。傾聴ボランティアが来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催により、区長や民生委員を通して地域の方々とも交流が出来る様になってきている。秋祭り等のホームの行事には、地域の方の参加を呼びかけ交流の機会を持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しておりホームからは利用者の様子や行事報告議案提出などを行い意見交換をしている。家族にも出席をいただいている。	運営推進会議は定期的に開催されている。活動状況等の報告を行い、運営推進会議の意義や目的、センター方式等について意見交換を行っている。意見等はサービス向上に活かしている。3月の開催時に市の担当者は参加していない。	会議は事業所の考え方、運営や現場の実情を伝える貴重な機会である。認知症ケアの実際を理解してもらうためにも、市の担当者には毎回の参加を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には社会福祉課の担当が出席し、意見交換をし、手続き代行や更新手続きのためのケアマネージャーや管理者が、市役所を訪れ相談をしている。	市の介護相談員の受け入れを行っている。利用者の報告や申請代行、相談等で市の担当窓口へ出かけ、市の担当者と連携を図りながら、サービス向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関には鍵を掛けず、誰でも気軽に出入し易い様に心がけている。また職員も拘束の研修会に参加し、身体拘束、言葉の拘束をしない様、取り組んでいる。	「身体抑制廃止、プライバシー保護について」の法人内研修に職員全員が参加し、共有認識を図っている。日中は玄関に施錠をせず、安全面に配慮して自由な暮らしを支援している。家族等とリスクに関する話をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について研修会で学びホームでの虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年者後見が必要なケースでは、管理者が一人で対応する為、職員が支援できる体制が整っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定等がある場合は十分な説明を行っています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに苦情受付箱を置き家族来訪時には話しやすい雰囲気を作っている。年2回家族会を開催し家族との会話の中から意見や苦情を引き出すように努めている	苦情受付箱を設置している。運営推進会議や家族等の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに努めている。年2回家族会を開催している。利用者・家族等との会話の中から、意見・苦情等を引き出すように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時、毎月開催の職員会議に意見や提案を出し合い全職員が理念を共有して実践に取り組んでいる	管理者は、申し送り時や職員会議で運営に関する職員の意見や提案を聞くように努めている。職員が気づいた時には、その都度、管理者に伝えてもらうようにしている。それらを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に管理者や職員に対し気配りをして勤務し易い環境作りをしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で定期的に行われている研修会に参加し、内容について報告書を提供し職場会議で意見交換する場を持っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会に加入しておりグループホーム大会に参加し、地域の同業者との交流の機会を持ってサービスの質の向上に反映させている。グループホーム大会では体験発表をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の困っている事、不安に思っている事要望等、コミュニケーションを取って信頼関係を築き安心して生活が出来る様努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	運営推進会議、年2回の家族会を開催して意見交換をしたり家族が来苑した時も困っている事不安に思う事要望を発言できる信頼関係が築ける様努める		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族の思い状況等を把握して必要としているサービスが提供出来る様努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は同じ家族の一員との考えで共に過ごし支えあう関係を大切にしている。人生の先輩としての利用者からことわざ昔の話戦争の話を教えてもらう事が多い		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状況をこまめに報告、相談するとともに来訪時は本人と家族の潤滑油になるよう心がけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	玄関には鍵をかけずオープンにしている気軽に来所して頂ける様、玄関先などに季節の花や壁飾りをして明るい雰囲気作りを心がけている	家族、兄弟、地域の人達が遊びに来たり、入居前に住んでいた家や周辺へのドライブに出かけている。家族と一緒に馴染みの美容院や買物等へ出かけている。電話や手紙での連絡を取り持っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホール内で利用者同士が係わりが持てる様にテーブル席を全員の顔が見え話しが出来る様に配置を考えているまた居室で過ごす時間が長くない様声掛けをして支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られても利用者様と訪問したり、家族の方とも連絡を取って相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で声かけを多くし会話の中から本人の希望を聞いたり行動や表現を見て意思や思いを把握するよう努めているその情報を記録や話し合いにより職員間で共有している	日々のかかわりの中で、声掛けを多くして、本人の言葉や行動・表現等から、意思や思いを把握するよう努めている。その情報を記録に残し、話し合いをしながら職員間で共有し、日々のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族等から意見や要望を聞いて職員が寄り添い自然に馴染みややすい雰囲気にも努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の思いや体調等に気配りしながら一人一人の希望に添った対応に努めている起床時間テレビ鑑賞等自由な時間を過ごせる様に支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員とケアマネージャーが本人、家族の気持ち、意見等を聴き職員会議でカンファレンスを行って本人家族の気持ちを反映させた介護計画を作成している	本人・家族等の思い・意向等を聞き取り、カンファレンスを行い、それぞれの意見等を反映させた介護計画を作成している。月1回モニタリングを行い、3ヶ月毎に定期的な見直し、状態の変化に応じて随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月一回のモニタリングと3か月に一回の介護計画の見直しを行っているが、状況の変化に伴い随時現状に即した見直しを行って介護計画を立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の状況や要望に応じて通院支援や買物同行等柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長、民生委員地域に住んでいる傾聴ボランティアとのふれ合い、地域の幼稚園児の訪問、秋祭りえ地域とのふれ合いに参加して暮らしを楽しむ様支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を大切に適切な医療を受けられる様支援している	入居時に、本人・家族等の意向を確認し、希望するかかりつけ医となっている。週1回、協力医が訪問診療に来ている。家族同行の通院等が不可能な場合には職員が代行し、受診結果を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	それぞれの職員が得た情報や気付きは、看護師であるホーム長に口頭、または申し送りノートなどを使用し、伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係との情報交換や相談に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針とあり方について本人家族等話し合い事業所で出来る事を説明し共有しながら取り組んでいく	「重度化・終末期対応指針」を作成しており、入居時に本人・家族等に説明し、同意を得ている。状態の変化に応じて、家族等の意向を確認し、主治医及び関係者全員で方針を共有しながら支援に取り組んでいる。「看取り介護についての同意書」をもらい、2名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修、講習会に参加し事故発生時に対応できる様実践力を身に付けている又緊急時の対応マニュアルを作成して勉強している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルが作成され法人として年2回消防署立ち会いと自主訓練を昼夜想定して避難訓練を行っている運営推進会議等を通して近隣の方々には協力を依頼している	年2回、消防署の協力を得て、総合防災訓練や避難誘導訓練等を実施している。運営推進会議等で地域住民に災害時の協力を呼びかけているが、災害時連絡網に地域住民は含まれていない。	いざという時に確実な避難誘導ができるように、避難誘導訓練の増加や職員だけの避難誘導の限界を踏まえて、地域住民の協力が実際に得られるように、災害時連絡網の整備に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人の誇りやプライバシーを損ねない様個人の気持ちを大切に声掛けや対応に注意を払っている記録の取り扱いや個人情報の扱いについても徹底し面会に来苑した方との会話などにも配慮している	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう、本人の気持ちを大切に声掛けや対応について会議で話し合い、注意を払っている。個人情報の取り扱いについては、秘密保持の徹底を図るよう留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話や行動表現からのサインを読み取り本人の意志や希望が気兼ねなく言える雰囲気や職場を設け働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースを大切にその時々で変化する気持ちであったり、体調に合わせて尊重し希望に添った支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服も本人の好きな服を選んでいただき外出時には声掛けをして着替えたり髪型も本人の意見を取り入れて理美容をしていますその人らしいお洒落が出来る様支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望を取り入れた献立や季節の行事の献立を考え職員と一緒に同じものを食べている又手作りおやつも希望を取り入れ一緒に作ったり後片付けをしたり家庭的な雰囲気です食事が楽しいものになる様工夫している	利用者は後片付け等を職員と一緒に、同じテーブルを囲み楽しく食事をしている。利用者の希望を取り入れ、旬の食材を使って栄養バランスに配慮した料理を提供している。昼食バイキングを実施したり外食にも出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月一回体重測定をしバランス等を考慮し季節の野菜や果物を取り入れた食事を提供している食事の量水分量は記録に残し健康管理を支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人の口腔状態に応じた口腔ケアを行っている又毎晩義歯等の除菌も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄習慣やパターンを理解し、排泄表のチェックを怠らず、プライバシーを尊重し、職員間での申し送りによって、個々に添った支援を心掛けている。	排泄表を使用し、習慣や排泄パターンに応じた個別の支援を行っている。時間を見計らったり、利用者の様子から察知してトイレ誘導を行っている。失禁時の対応については、本人のプライドを傷つけないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い野菜、海藻類、豆類、果物、乳製品等、バランスよく摂取出来る様メニューを工夫している。又、毎日運動をして腸の働きを助けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人の好みの湯加減を把握し、湯船に浸かる時間も個人の意見を尊重し、入浴していただく。入浴の順番もひとごとの変更し、平等に一番湯が楽しめる様考慮し、配慮している。	基本的には、火・木・土曜日の午後に入浴支援を行っている。入浴の順番は日毎に変更し、平等に一番風呂に入れるよう配慮している。入浴剤・ゆず等を入れ、入浴を楽しめるよう工夫をしている。	曜日や時間帯を設定せずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、いつでも入浴を楽しめるように、本人から希望を聞き、相談しながら個別の入浴支援を行っている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の今までの生活習慣から、利用者皆、それぞれ異なっている事を十分に理解し、時々状況に応じて、利用者のペースを考慮しながら安心して過ごせる様、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの利用者が服薬している、薬の目的や用法、用量、副作用を理解し、正しく服薬出来ているかも一口ずつ確認し支援している。また症状の変化にも職員間で把握出来る様、情報の共有を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人の生活歴の違いを理解し、毎日の中でも楽しみながら変化をつけていく様、支援している。また、四季に合わせて廊下に花をかいたり、散歩や外出をしたりと、四季の変化が伝わるように併せて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な会話の中から利用者の希望や要望を聴き安全を考慮した上で楽しんでもらえるよう、外出や散歩、買物、外食を取り入れている。また季節の花見、果実狩り、初詣なども利用者が楽しんで生活出来る様、支援している。	利用者の希望に沿って、ホーム周辺への散歩や衣料品スーパーへの買物、外食・ドライブ等に出かけている。季節毎の花見・紅葉狩り・梨狩り・イルミネーション見学・初詣等に出かけている。家族等と協力しながら、戸外に出て気分転換が図れるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	時々、利用者、職員一同で外出する事によって、買物、外食をして、一人一人が楽しみや希望に応じて過ごせる様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人への電話や手紙を希望される時は、いつでもやりとりが出来る様、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール各所に季節の草花や、利用者の作品、写真を飾って、利用者が居心地良く過ごせる様に配慮したり、家族の方が面会に来られた際に、安心されるように工夫している。	玄関に季節感のあるものを飾り、香を焚いている。職員手作りのパッチワークの作品や利用者の作品(貼り絵)等が掲示されている。テレビや大きなソファ、観葉植物が置かれ、季節の花を飾っている。落ち着いた設えになっており、居心地のよい場を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにて気のあった利用者同士で談話されたり、ソファのゆっくり座ってテレビを観られるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのタンス、鏡台、家族の写真や利用者の作品、絵画、人形、時計等が置いてあり、利用者が居心地良く過ごせ、個別性の在る居室作りに配慮している。	各居室には、筆筒・テーブル・椅子・ベンチ・家族の写真・縫いぐるみ・鏡・化粧道具等、馴染みのものや好みのものが持ち込まれ、一人ひとりが落ち着いて過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部(廊下、食堂、浴室、トイレ等)で安全に、そして自立した生活が送れる様に、問題があれば職員同士で話し合い、改善する工夫をしている。		